

## 新しいB型肝炎ウイルス治療薬登場！

肝臓川柳



『 B 肝も リスク無くなり ベリーグー (very good) 』

(ベリーグー…ベリグー…ベリグ…ベリグ…ベムリ…ベムリ…ベムリディ)

久しぶりに強引に変換してみました(^\_^)

……………ノノノノノ

平成 29 年 2 月 15 日に『ベムリディ錠』という新しい核酸アナログ製剤が発売となりました。

### 【核酸アナログ製剤とは】

- ・ 肝炎ウイルスの遺伝子 (DNA) に入り込むことでウイルスの複製を抑える薬剤で、  
現在 B 型慢性肝炎治療の中心を担っています。
- ・ これまで 4 種類「ゼフィックス」「ヘプセラ」「バラクルード」「テノゼット」が使用され、  
今回の「ベムリディ」が第 5 番目となります。
- ・ 高い抗ウイルス作用がありますが、  
長期間投与を継続すると効きにくくなる”薬剤耐性”の問題、  
尿管細胞障害に伴う腎機能障害、骨障害  
といったリスクもありました。

今回発売のベムリディ錠は、

耐性が起きないテノホビル (テノゼット)

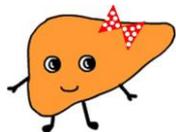
↓改良↓

肝臓への選択性を高めており、抗ウイルス効果が高い

長期間投与でも腎機能障害や骨障害といったリスクを起こさない

といった利点の多い新しい薬剤です。

第一選択薬であるとともに切り替えも有望な核酸アナログ製剤と期待しています。



これだけ覚えておけば損はない！

今 回 の ポ イ ン ト

第 5 番目の核酸アナログ製剤「ベムリディ錠」

耐性が起きないと言われているテノゼットの改良版で 抗ウイルス効果が高く、腎機能障害、骨障害のリスクも少ないといった利点があり

今後の核酸アナログ製剤の第一選択薬になると期待をされております。

(文：福井県肝疾患診療連携拠点病院運営委員会 野ツ俣 和夫)